

【後期始業式あいさつ】

外国を視野の中に

校 長 渡 邊 政 徳

今月から観光目的の外国人を含む全ての帰国者・入国者について、入国制限等が大きく緩和されるなど、外国との往来が回復しつつあります。これからますます来日する外国人が増加するとともに、皆さんが外国を訪問する機会も増えると思います。外国とのオンライン等での交流も大変意義深いものですが、実際に外国を訪問することは多くの刺激に満ちており、驚きの連続です。建物や町並み、人々の服装や表情、暮らしの様子、食べ物など興味は尽きません。また、日本語を話す人がほとんどいない中で行動するのはある意味で冒険です。英語などでのコミュニケーションの必要性を感じるでしょう。ただし、英語は便利な道具ですが、万能ではありません。英語圏外では現地の言葉を少しでも話せば人々ともっと親しくなれると思います。

皆さんの中には外国にあまり興味がないと言う人もいるかもしれませんが、私は一人ひとりに外国に興味や関心を持ってもらいたいと思います。その理由として、一つには外国を知ると同時に自国や自分自身のことを客観的に見る視点をもってもらいたいからです。今世界では自国の利益のみを優先する自国第一主義が散見されます。それが極端なものになると、自国の利益や理想のために他国を犠牲にしたり、侵略したりすることにもなり兼ねません。世界は気候変動問題をはじめ、様々な問題を抱えており、それらの解決に国際協調が欠かせません。物事を客観的に、そして多面的に見る力は、様々な問題や紛争を解決するのに重要となります。

学問においても世界的な視点が求められます。それぞれの学問分野の関心事は世界中の研究者によって共有されており、「あの国のあの研究者が新しい発見をした」というニュースはすぐに世界中に広がります。学問の世界には国境がないのです。大学では原書や海外論文の輪読などの勉強もあります。そのため共通言語である英語が重要です。そして、皆さんが英語で論文を出せば、世界から注目されることがあるかもしれません。

ビジネスの観点から見ると外国との交流は必然のものとなります。日本の企業は多くの外国の企業と取引を行っており、日常的なコミュニケーションが欠かせません。来日観光客によるインバウンド需要は大いに期待されており、受け入れ態勢を整えていく必要があります。そして、地域経済も外国との取引によって発展することが期待されています。人口減少が著しい地域においては、経済規模が縮小しつつありますが、外国と直接取引を行うことが一つの活路になり得ると思います。国際的なビジネスで地域を活性化するというのはワクワクすることではないでしょうか。

今日はこの後、NASA アメリカ航空宇宙局でエンジニアとして活躍する大丸拓郎さんのオンラインでの講演があります。大丸さんは自分のやりたい仕事を求めてアメリカに渡りました。皆さんの中にも将来外国で活躍する人もいますが、国の内外を問わず、仕事をする際にはもはや外国の存在を無視することはできません。皆さんの視野の中に外国を取り込んで未来を切り拓いてもらいたいと思います。